

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所

【現地駐在】TMB銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)

HD銀行(ベトナム・ホーチミン)、AGS JOINT STOCK COMPANY (ベトナム・ホーチミン)



【大連支店】

新型コロナウイルスに関する大連の現地レポート

1. はじめに

今も続く新型コロナウイルスの影響は、中国のみならず世界中へ拡大しています。日本においても緊急事態宣言が発令され、外出自粛や休業要請、臨時休校が必要となり、日常生活は激変しました。また、東京オリンピック2020の開催延期や著名人の訃報など、これまで想像もできなかったような事態となりました。

大連市でも今年1月の春節以降、生活は大きく様変わりし、移動・渡航制限や隔離措置が設けられ、外国からの入国制限は今もなお続いています。今回は中国・大連市の現状を生活レベルでレポートしたいと思います。

2. 大連市における新型コロナウイルスの影響

1月から拡散し始めた新型コロナウイルスへの感染防止策は、武漢市のロックダウンに始まり、専用病院(火神山病院)の10日間での突貫工事による建設、団体旅行の禁止、外出規制等、多岐に渡りました。感染拡大当初、私達の間では「そこまでやらなくてもいいのではないか。」と感じていたのですが、感染が全国に拡大するにつれ、市民の間に恐怖に近い警戒心が生まれてきました。



写真：街の至る所に設置された入所受付

大連市においても外出規制や飲食店への入店禁止、映画館・スポーツジム等の閉鎖が行われました。外出規

制中、街は静まり返り、まるで別世界に来ているような錯覚を覚える程でした。飲食店の休業はスターバックスが自主的に開始し、瞬く間に飲食店全体に広がっていきました。一部の飲食店では宅配サービスを継続していましたが、大半の店舗は3月18日までの約2ヶ月間、一時休業を強いられました。一方でスーパー



写真：閑散とした勝利広場

マーケットの宅配サービスは外出せずに買い物ができ、外部との接触も防げることから多くの方々が利用していました。

行動規制・管理も厳格に行われています。居住マンションや住居地区、オフィスビルの入口は1ヶ所もしくは数ヶ所に限定され、専用の受付を設けることが義務付けられました。また、入所者には「入館証」の提示もしくは登録が必須となりました。3月からは急遽開発された「市民雲」という健康管理アプリにより市民は健康状態の告知と建物・店舗への入館の登録（QRコードの読み込みにより登録する）を行うようになり、人々の行動がデータ管理されるようになりました。山口銀行大連支店でも出勤者及び来店者は必ずこのアプリを使って来店を登録することになっています。



写真：健康管理アプリ「市民雲」と山口銀行大連支店の入口



写真：衛生局によるPCR検査場への移動の車中

中国への渡航者に対する水際対策は日増しに厳格なものになっていきました。渡航者は当初、14日間の自主隔離が義務化されました。ある日本人駐在員は自主隔離中に市の衛生局から突然電話で呼び出しがあり、住居まで迎えに来た専用車両に乗せられて特別会場に移動、そこでPCR検査が強制的に行われました。3月26日以降は大連市に到着した渡航者は一律に市政府が指定したホテルに集中隔離されることになりました。その通知は当日、突然発布され、空港に到着した方々は外部との接触

を避ける為、そのままホテルに送迎されました。更に3月28日からは発給済みの査証（ビザ）や居留許可証を持つ外国人の入国までも禁止されました。

3. 国を挙げて行った医療崩壊防止策

新型コロナウイルスの発生源となった武漢市は連日多くの感染者が病院を訪れ、医療崩壊が危惧される状態となりました。大連市内は20名に満たない感染状況であったこともあり、1月26日に医療従事者17名が武漢市に応援に駆け付け、2月2日に18名、2月8日は511名が出発し、最終的に707名もの医療従事者が武漢市に向かいました。医療従事者の応援は全国で4.2万人にも及びました。



写真：医療従事者を称えるデジタルサイネージ

武漢市の感染が一段落し、大連市に戻った医療従事者の方々は「最美逆行者（自ら危険な所や本来なら行きたくない医療現場の最前線に逆行していった素晴らしい英雄達）」として賞賛され、市内各所や地下鉄のデジタルサイネージ（電子看板）にその方々の名前が写真とともに公表されました。このような徹底した活動は日本国内ではあまり報道されていませんが、医療崩壊を防ぎ、新型コロナウイルスを一刻も早く抑え込もうとすると国を挙げた姿勢が垣間見られ、畏怖の念を抱く程のものでした。

4. おわりに

4月8日に武漢市の封鎖が解かれ、中国国内の移動制限も徐々に解除されつつありますが、引き続き安全を確保するため、飛行機乗組員の検温やマスク・手袋着用、運航後の機内消毒などが徹底されています。大連市への国内移動については健康コードが正常、或いは健康証明書があれば14日間の集中隔離は不要となっています。（ただし、対応も頻繁に変更されますので、所属社区〈中国における都市部の集合住宅や近隣住民などコミュニティー区〉への確認も必要です）。

報道では中国の初動の遅れが世界的な大混乱を招いたとの報道があります。その一面は確かに否定できませんが、武漢封鎖に始まる感染防止策は一貫して徹底的に行われました。こういった防止策が功を奏し感染拡大が抑え込まれていると感じています。今では外部からの持込による感染以外は警戒しなくてもいいレベルまで回復しています。これはひとえにITの活用や市民統治の徹底、医療崩壊の防止策が効果を上げていると言えます。

大連支店では、引き続きお客様に様々な情報を発信し、お役に立てるよう努力してまいります。企業活動のお悩みがございましたら、是非ご相談ください。

※本レポートは2020年4月24日現在のものです。

（山口銀行大連支店 池岡 慶了）

【参考文献】

時事速報北京・華北版（2020年3月30日、4月9日、4月10日、4月20日）